（別紙様式４）

【職業実践専門課程認定後の公表様式】

令和4年10月1日※1

（前回公表年月日：令和 3年10月1日）

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
北海道どうぶつ・医療専門学校	1989年12月28日	末吉　良任	〒060-0042　北海道札幌市中央区大通西9丁目3-12 （電話）011-272-2811
設置者名	**設立認可年月日**	**代表者名**	**所在地**
学校法人北海道安達学園	1989年11月28日	安達　保敏	〒060-0001　北海道札幌市中央区大通西9丁目3-12 （電話）011-205-7600

分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士
商業実務	商業実務専門課程	ペット学科　トリマー専攻	○	―

学科の目的	学内犬の飼育管理や様々な取り組みを通じて、「人間とペットがしあわせに共生できる社会」の実現に貢献できるペットの専門家を育成する。
認定年月日	2014年3月31日

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	1,700	460	68	1,364	0	0
		1,892時間					

生徒総定員	生徒実員	留学生数（生徒実員の内数）	専任教員数	兼任教員数	総教員数
140人の内数	104人	0人	6人	5人	11人

学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日	成績評価	■成績表：　有 ■成績評価の基準・方法 各年度(1/2)、各期(前/後)に期末テスト、レポート課題を実施。また2年間の集大成として卒業論文、卒業制作を実施。出席日数、授業態度を平常点(最大15点)として加味し点数化し、各科目ごとに5段階A(100～80)・B(79～70)・C(69～50)・D(単位認定)・E(49～)の成績評価を行う
長期休み	■学年始め：4月1日 ■夏季：7月下旬から8月下旬まで ■冬季：12月下旬から1月下旬まで ■学年末：2月下旬から4月初旬まで	卒業・進級条件	・出席率90%以上 ・単位修得率85%以上 ・卒業制作の完成 ・学費の完納
学修支援等	■クラス担任制：　有 ■個別相談・指導等の対応 担任による生活指導及び保護者との連携強化を行う	課外活動	■課外活動の種類 業界イベントの参加・協力、ボランティア活動への参加 ■サークル活動：　無

就職等の状況※2

■主な就職先、業界等（令和3年度卒業生）
ペットハウステンテン、ジョイフルエーケー、帯広畜産センター、しば動物病院、うちだ動物病院、いなば動物病院、DOGdog　他

■就職指導内容
ホームルームの授業などで、就職に対する意識づけ、業界就職に対する正しい認識を指導（接遇マナー演習、面接練習、業界研究会、履歴書の書き方指導等）

■卒業者数	36	人
■就職希望者数	29	人
■就職者数	29	人
■就職率	100	%
■卒業者に占める就職者の割合		
：	81	%
■その他		
・進学者数：	○人	

（令和　3 年度卒業者に関する
年5月1日 時点の情報）

主な学修成果（資格・検定等）※3

■国家資格・検定/その他・民間検定等
（令和3年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報）

資格・検定名	種	受験者数	合格者数
愛玩動物飼養管理士	2級	38	38
動物愛護社会化検定		38	38
損害保険募集人試験		36	32

※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。
①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの
②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの
③その他（民間検定等）

■自由記述欄

中途退学の現状

■中途退学者　12 名　■中退率　12.4 %
令和3年4月1日時点において、在学者97名（令和3年4月1日入学者を含む）
令和4年3月31日時点において、在学者85名（令和4年3月31日卒業者を含む）

■中途退学の主な理由
健康上の理由、学習意欲低下、進路変更

■中退防止・中退者支援のための取組
担任による個別面談の実施、教職員同士の情報共有、カウンセリング、転専攻、転学科の実施。学科担当教員が、日頃より学生とコミュニケーションを密にする。

経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度:　　有 ※有の場合、制度内容を記入 奨学生制度（試験奨学生、チャレンジ奨学生、高校既卒者・社会人奨学生）、AO特待生入学、縁故優遇制度、語学優遇制度、在校生表彰制度 ■専門実践教育訓練給付:　　給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価:　　無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 （評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL）
当該学科の ホームページ URL	https://www.hdi.ac.jp/pet/course/torimmer/

（留意事項）
1．公表年月日（※1）
最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2．就職等の状況（※2）
「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて（通知）（25文科生第596号）」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。
（1）「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」における「就職率」の定義について
①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。
②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。
③「就職者」とは、正規の職員（雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいいます。
※「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。
（2）「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について
①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。
②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う）。
（3）上記のほか、「就職者数（関連分野）」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。
3．主な学修成果（※3）
認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他（民間検定等）の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果（例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等）について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

（1）教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

ペット学科教育内容：学内犬飼育管理から学ぶ、飼育の基本と人と動物との絆
犬とのコミュニケーション、社会貢献活動
幅広い知識と、技術
上記の教育内容を企業との連携により、必要となる最新の知識・技術・技能を反映する為、企業等の意見を十分に活かし改善・工夫を計っていく。

（2）教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会では①就職実績など教育成果、②カリキュラム、③教育環境・教材など、について審議。教育効果検証の場として位置付け、社会に貢献できる人材を育成していくための継続的改善について意見交換を行う。教育編成委員会の審議結果を基に、学校担当が中心となってカリキュラムなどの見直しを行い、翌年度のカリキュラムに反映させている。

（3）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年10月1日現在

名　前	所　　属	任期	種別
本間　裕也	北海道犬ぞり連盟　事務局長	令和4年4月1日～令和5年3月31日　1年更新	①
森　有佳理	DOG SALON 1+5	令和4年4月1日～令和5年3月31日　1年更新	③
吉住　憲広	北海道どうぶつ・医療専門学校	令和4年4月1日～令和5年3月31日　1年更新	
安達　敏亮	北海道どうぶつ・医療専門学校	令和4年4月1日～令和5年3月31日　1年更新	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

（4）教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年間開催数：年2回　開催予定時期：毎年9月　12月

（開催日時（実績））

令和3年度　第一回　　令和4年2月1日　11時00分～　12時30分
令和3年度　第二回　　令和4年3月1日　10時00分～　11時30分

（5）教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

飼育管理実習などについて。増加傾向にある学生数、及びさらなる学習環境の向上を目指し、施設の充実と学内動物の飼育数を増やす必要があるのではないか、との意見。それを受け施設のリニューアルを進め、順次飼育動物を増やすと同時に飼育環境のさらなる改善を行っている。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

インターンシップ（企業研修）や企業からの特別授業を通し、「現場の実践力と飼育管理力を備え、人と動物との絆を高める社会人の育成」に取り組んでいく

（2）実習・演習等における企業等との連携内容

専門分野の企業・業界団体などから指導講師が参画して①教材選定・科目実施方法・評価方法の設計、②授業の実施、③学校と連携して学生の評価、を行う。

（3）具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科　目　名	科　目　概　要	連　携　企　業　等
しつけ基礎	犬との接し方や注意点の把握と、飼い主の相談に乗れてアドバイスについて学ぶ	テイネ警察犬訓練所

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

（1）推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

教員規則の教員研修に基づき、教職員の業務に係わる必要な知識、技能、資質などの向上を図るため、年2回以上教職員の資質に応じた研修計画を策定し、校内・校内外で催される研修を受ける機会を学園として認め、奨励する。

（2）研修等の実績（令和3年度）

①専攻分野における実務に関する研修等（研修名、日程、連携企業名、内容を記載）

令和3年9月25日　一般社団法人日本動物看護職協会北海道・東北支部セミナー　「ペットの介護とシニアケア」

②指導力の修得・向上のための研修等（研修名、日程、連携企業名、内容を記載）

令和3年10月29日　札幌市自閉症・発達障がい支援センターおがる　「発達障がいの傾向がある大学生・専門学校生の就労支援ワークショップ」

令和3年8月3日　北海道私立専修学校各種学校教員能力認定委員会主催研修会 前田賢次氏「いま求められている・求めたい教育教育の間て

令和3年12月23日　北海道私立専修学校各種学校教員能力認定委員会主催研修会　神田裕子氏「この子ちょっと変わっている・・と感じた時の

（3）研修等の計画（令和4年度）

①専攻分野における実務に関する研修等（研修名、日程、連携企業名、内容を記載）

外部講師を招いての教職員研修会

②指導力の修得・向上のための研修等（研修名、日程、連携企業名、内容を記載）

北海道私立専修学校各種学校教員能力認定委員会主催研修会　令和4年8月、12月

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

（1）学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価委員会は学校法人北海道安達学園に位置付け、本法人の各学校に関係の深い企業等関連の方々を中心に、自己評価を基にご意見等を幅広くお聞きして、今後の教育活動や学校運営に反映させるべく法人全体に係る学校関係者評価を実施する

（2）「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
（1）教育理念・目標	1-1理念・目的・育成人材像は定められているか 1-2学校の特色は適正か 1-3学校の将来構想を抱いているか
（2）学校運営	2-1運営方針は定められているか 2-2事業計画は定められているか 2-3運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか 2-4人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか 2-5意思決定システムは確立されているか 2-6情報システム化等による業務の効率化が図られているか
（3）教育活動	3-1各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか 3-2修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか 3-3カリキュラムは体系的に編成されているか 3-4学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか 3-5キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか 3-6授業評価の実施・評価体制はあるか 3-7育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか 3-8教員の専門性を向上させる研修を行っているか 3-9成績評価・単位認定の基準は明確になっているか 3-10資格取得の指導体制はあるか
（4）学修成果	4-1就職率（卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率）の向上が図られている 4-2資格取得率の向上が図られているか 4-3退学率の低減が図られているか 4-4卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか
（5）学生支援	5-1就職関する体制は整備されているか 5-2学生相談に関する体制は整備されているか 5-3学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか 5-4学生の健康管理を担う組織体制はあるか 5-5課外活動に対する支援体制は整備されているか 5-6学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか 5-7保護者と適切に連携しているか 5-8卒業生への支援体制はあるか
（6）教育環境	6-1施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか 6-2学科実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか 6-3防災に対する体制は整備されているか
（7）学生の受入れ募集	7-1学生募集活動は、適正に行われているか 7-2学生募集において教育成果は正確に伝えられているか 7-3入学専攻は適性かつ公平な基準に基づき行われているか 7-4学納金は妥当なものとなっているか

(8)財務	8-1中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか 8-2予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか 8-3財務について会計監査が適正に行われているか 8-4財務情報公開の体制整備はできているか
(9)法令等の遵守	9-1法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか 9-2個人情報に監視、その保護のための対策がとられているか 9-3自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか 9-4自己点検・自己評価結果を公開しているか
(10)社会貢献・地域貢献	10-1学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか 10-2学生のボランティア活動を奨励、支援しているか
(11)国際交流	11-1グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みを行っているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会実施の意見として、自己評価に基づき特に学修成果、学生支援を重点的に意識をしながら教育活動を実施する。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和4年10月1日現在

名　前	所　　属	任期	種別
菅原　耕治	北海道デザイン協議会	令和4年4月1日～令和5年3月31日　1年更新	企業等委員
松倉　大樹	株式会社きしだ　Studio BACU	令和4年4月1日～令和5年3月31日　1年更新	企業等委員
山田 芳之	株式会社宿屋ネットワーク	令和4年4月1日～令和5年3月31日　1年更新	企業等委員
一條　實	・株式会社カメラのカネミチ	令和4年4月1日～令和5年3月31日　1年更新	企業等委員
本間　裕也	ジョイフルエーケー	令和4年4月1日～令和5年3月31日　1年更新	企業等委員 卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(公表方法:ホームページ　　公表時期:令和4年7月)

https://www.hdi.ac.jp/pet/information/pdf/2021HDI_SelfAssessment_SchoolOfficialEvaluation.pdf

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

（1）企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校が設定する情報項目に基づき、学校関係者へ幅広く情報を提供する

（2）「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
（1）学校の概要、目標及び計画	・基本情報 ・開校の目的 ・沿革 ・教育方針
（2）各学科等の教育	・定員 ・各学科　教育理念・教育方針・教育内容（ｶﾘｷｭﾗﾑ・目指す資格・行事）
（3）教職員	・教職員数
（4）キャリア教育・実践的職業教育	・キャリア教育への取り組み ・実習・実技、企業連携等の紹介（インターンシップ等） ・就職支援の取り組み（キャリアセンター）
（5）様々な教育活動・教育環境	・校外実習 ・校外見学 ・学校設備状況 ・サークル活動等 ・海外研修
（6）学生の生活支援	・学生生活サポート
（7）学生納付金・修学支援	・学費 ・学費サポートシステム
（8）学校の財務	・消費収支計算書
（9）学校評価	・自己点検自己評価 ・学校関係者評価
（10）国際連携の状況	・国際交流・連携
（11）その他	・災害時非常時緊急時の対応

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）情報提供方法：ホームページ

https://www.hdi.ac.jp/pet/information/

授業科目等の概要

（商業実務専門課程ペット学科トリマー専攻）令和4年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
●			資格試験対策	愛玩動物飼養管理士、動物愛護社会化検定取得へ向けての集中講義と過去の出題傾向を知る練習課題により資格取得を目指す	1前	34	2	●			●		●		
●			接遇マナー	社会人として、またペット業界に従事する者として必要な社会人マナー＆接遇マナーを学ぶ	1前	34	2	●	▲		●		●		
●			社会実務	学内での生活指導の他に、社会人として必要なルールやマナーと就職活動について学ぶ	1前	34	2		●		●		●		
●			動物健康管理学	犬種別による全体のカットを学びペットショップ業務に欠かせない掃除を掃除当番制を取り入れることにより、習慣づけていく。	1前	34	2	●			●			●	
●			トリミング実習	犬種別による全体のカットを学びペットショップ業務に欠かせない掃除を掃除当番制を取り入れることにより、習慣づけていく。	1前	228	16			●	●		●	●	●
●			トリミング概論	犬の習性や生態を理解し、基本的なグルーミングの知識と目的・必要性を学ぶ	1前	34	2	●			●		●	●	●
●			しつけ基礎	犬との接し方や注意点の把握と、飼い主の相談に乗れてアドバイスについて学ぶ	1前	34	2			●	●		●		●
●			飼育管理	動物の飼育方法や接し方、注意点の把握と飼い主へのアドバイス方法などについて学ぶ	1前	34	2			●	●		●	●	●
合計				8　科目	466単位時間（　30　単位）										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業の要件　①必要単位数の補修　全取得可能単位の85%(96単位)以上②出席について　1年次からの出席累計が規定時数以上であること③卒業課題の提出　学科により指定される卒業論文及び卒業制作の審査に合格すること④学費などの完納　本校所定の学費などを納入すること　履修について　・履修科目は、必須科目、選択科目、特別科目がある。必須科目、選択科目は履修を義務付けられている科目で、学期はじめのオリエンテーション時に発表する。特別授業は履修を義務付ける場合と義務付けない場合がある、一定の期間実施する集中授業である。特別授業の履修方法はその都度発表する。・2年間で履修すべき単位数と出席時数は定められており、それらが不足した場合は卒業保留となる。・卒業保留者には定められた期間に実施する補習授業、再試験などを行い、再単位取得の機会を与える。それらに合格し、必修単位数以上になると正規卒業者となる。・出席不足の恐れがある場合、夏季休暇、冬季休暇、春季休暇などに補習授業を実施する。・卒業制作は必修課題で提出の義務があり、所定の審査に合格する必要がある。・卒業制作は、学習成果を発表する重要な課題なので高単位である。・補習授業、追試験、再試験などは、認定されると授業単位数と同じになる。・補習授業、再試験は事前に指定の料金を徴収する。	１学年の学期区分	2期
	１学期の授業期間	17週

（留意事項）

１　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について〇を付し、その他の方法について△を付すこと。

２　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について〇を付すこと。

授業科目等の概要

（商業実務専門課程ペット学科トリマー専攻）令和4年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
●			資格試験対策	愛玩動物飼養管理士、動物愛護社会化検定取得へ向けての集中講義と過去の出題傾向を知る練習課題により資格取得を目指す	1後	32	2	●			●		●		
●			接遇マナー	社会人として、またペット業界に従事する者として必要な社会人マナー＆接遇マナーを学ぶ	1後	32	2	●	▲		●		●		
●			社会実務	学生生活や社会人になる為と業界に向けての注意点を学ぶ	1後	32	2	●			●		●		
●			動物健康管理学	動物の病気や応急処置、ワクチンや感染症など健康な状態を維持するための基本知識を学ぶ	1後	32	2	●			●			●	
●			トリミング実習	犬種別による全体のカットを学びペットショップ業務に欠かせない掃除を掃除当番制を取り入れることにより、習慣づけていく。	1後	256	16			●	●		●	●	●
●			トリミング概論	犬の習性や生態を理解し、基本的なグルーミングの知識と目的・必要性を学ぶ	1後	32	2	●			●		●	●	●
●			飼育管理	動物の飼育方法や接し方、注意点の把握と飼い主へのアドバイス方法などについて学ぶ	1後	32	2			●	●		●	●	●
●			しつけ基礎	犬との接し方や注意点の把握と、飼い主の相談に乗れてアドバイスについて学ぶ	1後	32	2			●	●		●		●
合計				8　科目				480単位時間（　30　単位）							

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業の要件　①必要単位数の補修　全取得可能単位の85%(96単位)以上②出席について　1年次からの出席累計が規定時数以上であること③卒業課題の提出　学科により指定される卒業論文及び卒業制作の審査に合格すること④学費などの完納　本校所定の学費などを納入すること　履修について　・履修科目は、必須科目、選択科目、特別科目がある。必須科目、選択科目は履修を義務付けられている科目で、学期はじめのオリエンテーション時に発表する。特別授業は履修を義務付ける場合と義務付けない場合がある、一定の期間実施する集中授業である。特別授業の履修方法はその都度発表する。・2年間で履修すべき単位数と出席時数は定められており、それらが不足した場合は卒業保留となる。・卒業保留者には定められた期間に実施する補習授業、再試験などを行い、再単位取得の機会を与える。それらに合格し、必修単位数以上になると正規卒業者となる。・出席不足の恐れがある場合、夏季休暇、冬季休暇、春季休暇などに補習授業を実施する。・卒業制作は必修課題で提出の義務があり、所定の審査に合格する必要がある。・卒業制作は、学習成果を発表する重要な課題なので高単位である。・補習授業、追試験、再試験などは、認定されると授業単位数と同じになる。・補習授業、再試験は事前に指定の料金を徴収する。	１学年の学期区分	2期
	１学期の授業期間	16週

（留意事項）

１　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について〇を付し、その他の方法について△を付すこと。

２　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について〇を付すこと。

授業科目等の概要

（商業実務専門課程ペット学科トリマー専攻）令和4年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
●			社会実務	学生と社会人の違いを知り、自己分析から自分自身を見直し将来への目標設定を行う	2前	34	2	●			●		●		
●			パソコン演習	就職後に様々なシーンで必要となる基本的なパソコンスキルを身につける	2前	34	2		●		●			●	
●			ショップ実務	ペットショップ勤務において必要な基礎知識と接客対応を学び、今後の就職に向けての意識を高める。	2前	34	2			●	●		●		
●			トリミング実習	1人、もしくは2人で1匹の実習犬を担当する。担当した実習犬のトリミング作業終了時間の短縮を目標とする。	2前	272	16			●	●		●	●	
●			トリミング概論	犬の習性や生態を理解し、基本的なグルーミングの知識と目的・必要性を学ぶ	2前	34	2	●			●		●		
合計				5　科目	408単位時間（　24　単位）										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業の要件　①必要単位数の補修　全取得可能単位の85%(96単位)以上②出席について　1年次からの出席累計が規定時数以上であること③卒業課題の提出　学科により指定される卒業論文及び卒業制作の審査に合格すること④学費などの完納　本校所定の学費などを納入すること　履修について　・履修科目は、必須科目、選択科目、特別科目がある。必須科目、選択科目は履修を義務付けられている科目で、学期はじめのオリエンテーション時に発表する。特別授業は履修を義務付ける場合と義務付けない場合がある、一定の期間実施する集中授業である。特別授業の履修方法はその都度発表する。・2年間で履修すべき単位数と出席時数は定められており、それらが不足した場合は卒業保留となる。・卒業保留者には定められた期間に実施する補習授業、再試験などを行い、再単位取得の機会を与える。それらに合格し、必修単位数以上になると正規卒業者となる。・出席不足の恐れがある場合、夏季休暇、冬季休暇、春季休暇などに補習授業を実施する。・卒業制作は必修課題で提出の義務があり、所定の審査に合格する必要がある。・卒業制作は、学習成果を発表する重要な課題なので高単位である。・補習授業、追試験、再試験などは、認定されると授業単位数と同じになる。・補習授業、再試験は事前に指定の	１学年の学期区分	2期
	１学期の授業期間	17週

（留意事項）

１　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について〇を付し、その他の方法について△を付すこと。

２　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について〇を付すこと。

授業科目等の概要

（商業実務専門課程ペット学科トリマー専攻）令和4年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
●			社会実務	学生と社会人の違いを知り、自己分析から自分自身を見直し将来への目標設定を行う	2後	32	2	●			●		●		
●			卒業制作	ペット分野で学んだ中から絞り込み、自己課題を決め深く分析しまとめ上げる	2後	32	2			●	●		●		
●			ショップ実務	ペットショップ勤務において必要な基礎知識と接客対応を学び、今後の就職に向けての意識を高める。	2後	32	2	●			●		●		
●			トリミング実習	各犬種別のトリミング技術の向上と、「きれいに、丁寧に、短時間で」を常に意識して作業することを目的とする。	2後	256	16			●	●		●	●	
●			トリミング概論	犬の習性や生態を理解し、基本的なグルーミングの知識と目的・必要性を学ぶ	2後	32	2	●			●		●		
●			総合学習	様々な企業・団体と連携した学外イベント、企業研修などに参加し、社会で必要とされるコミュニケーションスキルなどを身につける	2後	154				●	●	●	●	●	●
合計				6　科目				538単位時間（　24　単位）							

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業の要件　①必要単位数の補修　全取得可能単位の85%(96単位)以上②出席について　1年次からの出席累計が規定時数以上であること③卒業課題の提出　学科により指定される卒業論文及び卒業制作の審査に合格すること④学費などの完納　本校所定の学費などを納入すること　履修について　・履修科目は、必須科目、選択科目、特別科目がある。必須科目、選択科目は履修を義務付けられている科目で、学期はじめのオリエンテーション時に発表する。特別授業は履修を義務付ける場合と義務付けない場合がある、一定の期間実施する集中授業である。特別授業の履修方法はその都度発表する。・2年間で履修すべき単位数と出席時数は定められており、それらが不足した場合は卒業保留となる。・卒業保留者には定められた期間に実施する補習授業、再試験などを行い、再単位取得の機会を与える。それらに合格し、必修単位数以上になると正規卒業者となる。・出席不足の恐れがある場合、夏季休暇、冬季休暇、春季休暇などに補習授業を実施する。・卒業制作は必修課題で提出の義務があり、所定の審査に合格する必要がある。・卒業制作は、学習成果を発表する重要な課題なので高単位である。・補習授業、追試験、再試験などは、認定されると授業単位数と同じになる。・補習授業、再試験は事前に指定の料金を徴収する。	１学年の学期区分	2期
	１学期の授業期間	16週

（留意事項）

１　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について〇を付し、その他の方法について△を付すこと。

２　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について〇を付すこと。

（別紙様式４）

【職業実践専門課程認定後の公表様式】

令和4年10月1日※１

（前回公表年月日：令和 3年10月1日）

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
北海道どうぶつ・医療専門学校	1989年12月28日	末吉　良任	〒060-0042　北海道札幌市中央区大通西9丁目3-12 （電話）　011-272-2811
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地
学校法人北海道安達学園	1989年11月28日	安達　保敏	〒060-0001　北海道札幌市中央区大通西9丁目3-12 （電話）　011-205-7600

分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士
商業実務	商業実務専門課程	ペット学科　総合ペット専攻	○	—

学科の目的	学内犬の飼育管理や様々な取り組みを通じて、「人間とペットがしあわせに共生できる社会」の実現に貢献できるペットの専門家を育成する。
認定年月日	2014年3月31日

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	1,700	926	0	966	0	0
		1,892時間					

生徒総定員	生徒実員	留学生数（生徒実員の内	専任教員数	兼任教員数	総教員数
140人の内数	61人	1人	6人	5人	11人

学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日	成績評価	■成績表：　有 ■成績評価の基準・方法 各年度(1/2)、各期(前/後)に期末テスト、レポート課題を実施。また２年間の集大成として卒業論文、卒業制作を実施。出席日数、授業態度を平常点(最大15点)として加味し点数化し、各科目ごとに５段階Ａ(100～80)・Ｂ(79～70)・Ｃ(69～50)・Ｄ(単位認定)・Ｅ(49～)の成績評価を行う
長期休み	■学年始め：4月1日 ■夏季：7月下旬から8月下旬まで ■冬季：12月下旬から1月下旬まで ■学年末：2月下旬から4月初旬まで	卒業・進級条件	・出席率90%以上 ・単位修得率85%以上 ・卒業制作の完成 ・学費の完納
学修支援等	■クラス担任制：　有 ■個別相談・指導等の対応 担任による生活指導及び保護者との連携強化を行う	課外活動	■課外活動の種類 業界イベントの参加・協力、ボランティア活動への参加 ■サークル活動：　無
就職等の状況※２	■主な就職先、業界等（令和3年度卒業生） 北海道警察、釧路市役所、ペットハウステンテン、ジョイフルエーケー他 ■就職指導内容 ホームルームの授業などで、就職に対する意識づけ、業界就職に対する正しい認識を指導（接遇マナー演習、面接練習、業界研究会、履歴書の書き方指導等） ■卒業者数　23　人 ■就職希望者数　18　人 ■就職者数　18　人 ■就職率　100　% ■卒業者に占める就職者の割合 ：　78　% ■その他 ・進学者数：　○人 （令和　3 年度卒業者に関する 年5月1日時点の情報）	主な学修成果（資格・検定等）※３	■国家資格・検定/その他・民間検定等 （令和3年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報）

資格・検定名	種別	受験者数	合格者数
愛玩動物飼養管理士	2級	25	24
動物愛護社会化検定		25	25
損害保険募集人試験		13	9

※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。
①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの
②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの
③その他（民間検定等）

■自由記述欄

中途退学の現状	■中途退学者　6 名　■中退率　11.8 % 令和3年4月1日時点において、在学者51名（令和3年4月1日入学者を含む） 令和4年3月31日時点において、在学者45名（令和4年3月31日卒業者を含む） ■中途退学の主な理由 健康上の理由、学習意欲低下、進路変更 ■中退防止・中退者支援のための取組 担任による個別面談の実施、教職員同士の情報共有、カウンセリング、転専攻、転学科の実施。学科担当教員が、日頃より学生とコミュニ
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度：　有 ※有の場合、制度内容を記入 奨学生制度（試験奨学生、チャレンジ奨学生、高校既卒者・社会人奨学生）、AO特待生入学、縁故優遇制度、語学優遇制度、在校生表彰制度 ■専門実践教育訓練給付：　給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価：　無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 （評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページＵＲＬ）
当該学科のホームページＵＲＬ	https://www.hdi.ac.jp/pet/course/general-pets/

（留意事項）
１．公表年月日（※１）
最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後１か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度７月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

２．就職等の状況（※２）
「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて（通知）（２５文科生第５９６号）」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。
（１）「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」における「就職率」の定義について
①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。
②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。
③「就職者」とは、正規の職員（雇用契約期間が１年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいいます。
※「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。
（２）「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について
①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。
②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う）。
（３）上記のほか、「就職者数（関連分野）」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数

３．主な学修成果（※３）
認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他（民間検定等）の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果（例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等）について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

（1）教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針
ペット学科教育内容：学内犬飼育管理から学ぶ、飼育の基本と人と動物との絆
犬とのコミュニケーション、社会貢献活動

（2）教育課程編成委員会等の位置付け
教育課程編成委員会では①就職実績など教育成果、②カリキュラム、③教育環境・教材など、について審議。教育効果検証の場として位置付け、社会に貢献できる人材を育成していくための継続的改善について意見交換を行う。教育編成委員会の審議結果を基に、学校担当が中心となってカリキュラムなどの見直しを行い、翌年度のカリキュラムに反映させている。

（3）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年10月1日現在

名　前	所　　属	任期	種別
本間　裕也	北海道犬ぞり連盟　事務局長	令和4年4月1日～令和5年3月31日　1年更新	①
森　有佳理	DOG SALON 1+5	令和4年4月1日～令和5年3月31日　1年更新	③
吉住　憲広	北海道どうぶつ・医療専門学校	令和4年4月1日～令和5年3月31日　1年更新	
安達　敏亮	北海道どうぶつ・医療専門学校	令和4年4月1日～令和5年3月31日　1年更新	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

（4）教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
年間開催数：年2回　開催予定時期：毎年９月　12月

（開催日時（実績））
令和3年度　第一回　　令和4年2月1日　11時00分～　12時30分
令和3年度　第二回　　令和4年3月1日　10時00分～　11時30分

（5）教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
飼育管理実習などについて。増加傾向にある学生数、及びさらなる学習環境の向上を目指し、施設の充実と学内動物の飼育数を増やす必要があるのではないか、との意見。それを受け施設のリニューアルを進め、順次飼育動物を増やすと同時に飼育環境のさらなる改善を行っている。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
インターンシップ（企業研修）や企業からの特別授業を通し、「現場の実践力と飼育管理力を備え、人と動物との絆を高める社会人の育成」に取り組んでいく

（2）実習・演習等における企業等との連携内容
専門分野の企業・業界団体などから指導講師が参画して①教材選定・科目実施方法・評価方法の設計、②授業の実施、③学校と連携して学生の評価、を行う。

（3）具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科　目　名	科　目　概　要	連　携　企　業　等
しつけ・訓練	犬の性格・能力・習慣を理解し、犬とのコミュニケーションの取り方を実習授業を通じて習得する	テイネ警察犬訓練所
しつけ概論	犬の性格・能力・習慣を理解し、犬とのコミュニケーションの取り方を講義、及び演習授業を通じて習得する	テイネ警察犬訓練所

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

（1）推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

教員規則の教員研修に基づき、教職員の業務に係わる必要な知識、技能、資質などの向上を図るため、年2回以上教職員の資質に応じた研修計画を策定し、校内・校内外で催される研修を受ける機会を学園として認め、奨励する。

（2）研修等の実績（令和3年度）

①専攻分野における実務に関する研修等（研修名、日程、連携企業名、内容を記載）

令和3年9月25日　一般社団法人日本動物看護職協会北海道・東北支部セミナー 「ペットの介護とシニアケア」

②指導力の修得・向上のための研修等（研修名、日程、連携企業名、内容を記載）

令和3年10月29日　札幌市自閉症・発達障がい支援センターおがる 「発達障がいの傾向がある大学生・専門学校生の就労支援ワークショップ」

令和3年8月3日　北海道私立専修学校各種学校教員能力認定委員会主催研修会 前田賢次氏「いま求められている・求めたい教育教育の間で」

令和3年12月23日　北海道私立専修学校各種学校教員能力認定委員会主催研修会　神田裕子氏「この子ちょっと変わっている・・と感じた時の支援法」

（3）研修等の計画（令和4年度）

①専攻分野における実務に関する研修等（研修名、日程、連携企業名、内容を記載）

外部講師を招いての教職員研修会

②指導力の修得・向上のための研修等（研修名、日程、連携企業名、内容を記載）

北海道私立専修学校各種学校教員能力認定委員会主催研修会　令和4年8月、12月

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

（1）学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価委員会は学校法人北海道安達学園に位置付け、本法人の各学校に関係の深い企業等関連の方々を中心に、自己評価を基にご意見等を幅広くお聞きして、今後の教育活動や学校運営に反映させるべく法人全体に係る学校関係者評価を実施する

（2）「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
（1）教育理念・目標	1-1理念・目的・育成人材像は定められているか 1-2学校の特色は適正か 1-3学校の将来構想を抱いているか
（2）学校運営	2-1運営方針は定められているか 2-2事業計画は定められているか 2-3運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか 2-4人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか 2-5意思決定システムは確立されているか 2-6情報システム化等による業務の効率化が図られているか
（3）教育活動	3-1各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか 3-2修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか 3-3カリキュラムは体系的に編成されているか 3-4学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか 3-5キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか 3-6授業評価の実施・評価体制はあるか 3-7育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか 3-8教員の専門性を向上させる研修を行っているか 3-9成績評価・単位認定の基準は明確になっているか 3-10資格取得の指導体制はあるか

(4)学修成果	4-1就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られている 4-2資格取得率の向上が図られているか 4-3退学率の低減が図られているか 4-4卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか
(5)学生支援	5-1就職関する体制は整備されているか 5-2学生相談に関する体制は整備されているか 5-3学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか 5-4学生の健康管理を担う組織体制はあるか 5-5課外活動に対する支援体制は整備されているか 5-6学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか 5-7保護者と適切に連携しているか 5-8卒業生への支援体制はあるか
(6)教育環境	6-1施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか 6-2学科実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか 6-3防災に対する体制は整備されているか
(7)学生の受入れ募集	7-1学生募集活動は、適正に行われているか 7-2学生募集において教育成果は正確に伝えられているか 7-3入学専攻は適性かつ公平な基準に基づき行われているか 7-4学納金は妥当なものとなっているか
(8)財務	8-1中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか 8-2予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか 8-3財務について会計監査が適正に行われているか 8-4財務情報公開の体制整備はできているか
(9)法令等の遵守	9-1法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか 9-2個人情報に監視、その保護のための対策がとられているか 9-3自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか 9-4自己点検・自己評価結果を公開しているか
(10)社会貢献・地域貢献	10-1学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか 10-2学生のボランティア活動を奨励、支援しているか
(11)国際交流	11-1グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みを行っているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会実施の意見として、自己評価に基づき特に学修成果、学生支援を重点的に意識をしながら教育活動を実施する。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和4年10月1日現在

名　前	所　　属	任期	種別
菅原　耕治	北海道デザイン協議会	令和4年4月1日～令和5年3月31日　1年更新	企業等委員
松倉　大樹	株式会社きしだ　Studio BACU	令和4年4月1日～令和5年3月31日　1年更新	企業等委員
山田 芳之	株式会社宿屋ネットワーク	令和4年4月1日～令和5年3月31日　1年更新	企業等委員
一條　實	・株式会社カメラのカネミチ	令和4年4月1日～令和5年3月31日　1年更新	企業等委員
本間　裕也	ジョイフルエーケー	令和4年4月1日～令和5年3月31日　1年更新	企業等委員 卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(公表方法:ホームページ　　公表時期:令和4年7月)

https://www.hdi.ac.jp/pet/information/pdf/2021HDI_SelfAssessment_SchoolOfficialEvaluation.pdf

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

（1）企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校が設定する情報項目に基づき、学校関係者へ幅広く情報を提供する

（2）「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
（1）学校の概要、目標及び計画	・基本情報 ・開校の目的 ・沿革 ・教育方針
（2）各学科等の教育	・定員 ・各学科　教育理念・教育方針・教育内容（ｶﾘｷｭﾗﾑ・目指す資格・行事）
（3）教職員	・教職員数
（4）キャリア教育・実践的職業教育	・キャリア教育への取り組み ・実習・実技、企業連携等の紹介（インターンシップ等） ・就職支援の取り組み（キャリアセンター）
（5）様々な教育活動・教育環境	・校外実習 ・校外見学 ・学校設備状況 ・サークル活動等 ・海外研修
（6）学生の生活支援	・学生生活サポート
（7）学生納付金・修学支援	・学費 ・学費サポートシステム
（8）学校の財務	・消費収支計算書
（9）学校評価	・自己点検自己評価 ・学校関係者評価
（10）国際連携の状況	・国際交流・連携
（11）その他	・災害時非常時緊急時の対応

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）情報提供方法：ホームページ

https://www.hdi.ac.jp/pet/information/

授業科目等の概要

(商業実務専門課程ペット学科総合ペット専攻）令和4年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
●			資格試験対策	愛玩動物飼養管理士、動物愛護社会化検定取得へ向けての集中講義と過去の出題傾向を知る練習課題により資格取得を目指す	1前	34	2	●			●		●		
●			接遇マナー	社会人として、またペット業界に従事する者として必要な社会人マナー＆接遇マナーを学ぶ	1前	34	2	●	▲		●			●	
●			社会実務	学内での生活指導の他に、社会人として必要なルールやマナーと就職活動について学ぶ	1前	34	2	●			●		●		
●			動物行動学	犬猫の進化や生態・行動様式、犬猫種や飼育の基礎を学ぶ	1前	34	2	●			●			●	●
●			動物健康管理学	犬種別による全体のカットを学びペットショップ業務に欠かせない掃除を掃除当番制を取り入れることにより、習慣づけていく。	1前	34	2	●			●			●	
●			ショップ実務	ペットショップで必要とされる基本的な商品知識、陳列方法、接客方法などを総合的に学ぶ	1前	34	2	▲		●	●		●		
●			トリミング実習	グルーミング作業工程での熟練と、トリミング犬種別のスタイルの違い、足回りのカットなどのシザーリングの初歩から学ぶ	1前	68	4			●	●		●	●	●
●			しつけ・訓練	犬の性格・能力・習慣を理解し、犬とのコミュニケーションの取り方を実習授業を通じて習得する	1前	102	6			●	●	●	●	●	●
●			しつけ概論	犬の性格・能力・習慣を理解し、犬とのコミュニケーションの取り方を理論的に学ぶ	1前	34	2	●			●		●	●	●
●			飼育管理	動物の飼育管理について総合的に学ぶ	1前	68	4	●			●		●		
合計				9　科目	476単位時間(　28　単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業の要件　①必要単位数の補修　全取得可能単位の85%(96単位)以上②出席について　1年次からの出席累計が規定時数以上であること③卒業課題の提出　学科により指定される卒業論文及び卒業制作の審査に合格すること④学費などの完納本校所定の学費などを納入すること　履修について　・履修科目は、必須科目、選択科目、特別科目がある。必須科目、選択科目は履修を義務付けられている科目で、学期はじめのオリエンテーション時に発表する。特別授業は履修を義務付ける場合と義務付けない場合がある、一定の期間実施する集中授業である。特別授業の履修方法はその都度発表する。・2年間で履修すべき単位数と出席時数は定められており、それらが不足した場合は卒業保留となる。・卒業保留者には定められた期間に実施する補習授業、再試験などを行い、再単位取得の機会を与える。それらに合格し、必修単位数以上になると正規卒業者となる。・出席不足の恐れがある場合、夏季休暇、冬季休暇、春季休暇などに補習授業を実施する。・卒業制作は必修課題で提出の義務があり、所定の審査に合格する必要がある。・卒業制作は、学習成果を発表する重要な課題なので高単位である。・補習授業、追試験、再試験などは、認定されると授業単位数と同じになる。・補習授業、再試験は事前に指定の料金を徴収する。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	17週

（留意事項）

１　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

２　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(商業実務専門課程ペット学科総合ペット専攻）令和4年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
●			資格試験対策	愛玩動物飼養管理士、動物愛護社会化検定取得へ向けての集中講義と過去の出題傾向を知る練習課題により資格取得を目指す	１後	32	2	●			●		●		
●			接遇マナー	社会人として、またペット業界に従事する者として必要な社会人マナー＆接遇マナーを学ぶ	１後	32	2	●	▲		●			●	
●			社会実務	学生生活や社会人になる為と業界に向けての注意点を学ぶ	１後	32	2	●			●		●		
●			犬種学	犬猫の進化や生態・行動様式、犬猫種や飼育の基礎を学ぶ	１後	32	2	●			●			●	●
●			動物健康管理学	動物の病気や応急処置、ワクチンや感染症など健康な状態を維持するための基本知識を学ぶ	１後	32	2	●			●			●	
●			ショップ実務	ペットショップで必要とされる基本的な商品知識、陳列方法、接客方法などを総合的に学ぶ	１後	32	2	▲		●	●		●		
●			トリミング実習	犬種別による全体のカットを学びペットショップ業務に欠かせない掃除を掃除当番制を取り入れることにより、習慣づけていく。	１後	64	4			●	●		●	●	●
●			しつけ・訓練	犬とのコミュニケーションに重点をおき、オビディエンスいて学ぶ	１後	96	6			●	●		●	●	●
●			しつけ概論	犬の性格・能力・習慣を理解し、犬とのコミュニケーションの取り方を理論的に学ぶ	１前	32	2	●			●		●	●	●
●			飼育管理学	動物の飼育管理について総合的に学ぶ	１後	64	4	●			●		●		
●			総合学習	様々な企業・団体と連携した学外イベント、企業研修などに参加し、社会で必要とされるコミュニケーションスキルなどを身につける	1年	22				●	●	●	●	●	●
合計				10　科目	470単位時間(　28　単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業の要件　①必要単位数の補修　全取得可能単位の85%(96単位)以上②出席について　1年次からの出席累計が規定時数以上であること③卒業課題の提出　学科により指定される卒業論文及び卒業制作の審査に合格すること④学費などの完納　本校所定の学費などを納入すること　履修について　・履修科目は、必須科目、選択科目、特別科目がある。必須科目、選択科目は履修を義務付けられている科目で、学期はじめのオリエンテーション時に発表する。特別授業は履修を義務付ける場合と義務付けない場合がある、一定の期間実施する集中授業である。特別授業の履修方法はその都度発表する。・2年間で履修すべき単位数と出席時数は定められており、それらが不足した場合は卒業保留となる。・卒業保留者には定められた期間に実施する補習授業、再試験などを行い、再単位取得の機会を与える。それらに合格し、必修単位数以上になると正規卒業者となる。・出席不足の恐れがある場合、夏季休暇、冬季休暇、春季休暇などに補習授業を実施する。・卒業制作は必修課題で提出の義務があり、所定の審査に合格する必要がある。・卒業制作は、学習成果を発表する重要な課題なので高単位である。・補習授業、追試験、再試験などは、認定されると授業単位数と同じになる。・補習授業、再試験は事前に指定の料金を徴収する。	１学年の学期区分	2期
	１学期の授業期間	16週

（留意事項）

１　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

２　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(商業実務専門課程ペット学科総合ペット専攻）令和4年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
●			社会実務	学生と社会人の違いを知り、自己分析から自分自身を見直し将来への目標設定を行う	2前	34	2	●			●		●		
●			パソコン演習	就職後に様々なシーンで必要となる基本的なパソコンスキルを身につける	2前	34	2		▲	●	●		●		
●			動物健康管理学	動物の病気や応急処置、ワクチンや感染症など健康な状態を維持するための基本知識を学ぶ	2前	34	2	●			●			●	
●			ショップ実務	ペットショップ勤務において必要な基礎知識と接客対応を学び、今後の就職に向けての意識を高める。	2前	34	2	●			●		●		
●			トリミング実習	1人、もしくは2人で1匹の実習犬を担当する。担当した実習犬のトリミング作業終了時間の短縮を目標とする。	2前	68	4			●	●		●	●	●
●			しつけ・訓練	犬とのコミュニケーションに重点をおき、指示とアジリティ競技について学ぶ	2前	102	6			●	●	●	●	●	●
●			しつけ概論	犬の性格・能力・習慣を理解し、犬とのコミュニケーションの取り方を理論的に学ぶ	2前	34	2	●			●		●	●	●
●			飼育管理	動物の飼育管理について総合的に学ぶ	2前	68	4	●			●			●	
●			動物病院実務	動物病院で勤務するにあたり必要な基礎知識と接客対応を学ぶ	2前	34	2	●			●			●	
合計				9　科目	442単位時間(　26　単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業の要件　①必要単位数の補修　全取得可能単位の85%(96単位)以上②出席について　1年次からの出席累計が規定時数以上であること③卒業課題の提出　学科により指定される卒業論文及び卒業制作の審査に合格すること④学費などの完納　本校所定の学費などを納入すること　履修について　・履修科目は、必須科目、選択科目、特別科目がある。必須科目、選択科目は履修を義務付けられている科目で、学期はじめのオリエンテーション時に発表する。特別授業は履修を義務付ける場合と義務付けない場合がある、一定の期間実施する集中授業である。特別授業の履修方法はその都度発表する。・2年間で履修すべき単位数と出席時数は定められており、それらが不足した場合は卒業保留となる。・卒業保留者には定められた期間に実施する補習授業、再試験などを行い、再単位取得の機会を与える。それらに合格し、必修単位数以上になると正規卒業者となる。・出席不足の恐れがある場合、夏季休暇、冬季休暇、春季休暇などに補習授業を実施する。・卒業制作は必修課題で提出の義務があり、所定の審査に合格する必要がある。・卒業制作は、学習成果を発表する重要な課題なので高単位である。・補習授業、追試験、再試験などは、認定されると授業単位数と同じになる。・補習授業、再試	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	17週

（留意事項）

1　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(商業実務専門課程ペット学科総合ペット専攻）令和4年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
●			社会実務	学生と社会人の違いを知り、自己分析から自分自身を見直し将来への目標設定を行う	２後	32	2	●			●		●		
●			卒業制作	ペット分野で学んだ中から絞り込み、自己課題を決め深く分析しまとめ上げる	２後	32	2			●	●		●		
●			動物健康管理学	動物の病気や応急処置、ワクチンや感染症など健康な状態を維持するための基本知識を学ぶ	２後	32	2	●			●			●	
●			ショップ実務	ペットショップ勤務において必要な基礎知識と接客対応を学び、今後の就職に向けての意識を高める。	２後	32	2	●			●		●		
●			トリミング実習	各犬種別のトリミング技術の向上と、「きれいに、丁寧に、短時間で」を常に意識して作業することを目的とする。	２後	64	4			●	●		●	●	●
●			しつけ・訓練	ドッグトレーニング技術、飼い主からのしつけ相談の対応ができる知識を学ぶ	２後	96	6			●	●		●	●	●
●			しつけ概論	犬の性格・能力・習慣を理解し、犬とのコミュニケーションの取り方を理論的に学ぶ	２後	32	2	●			●		●	●	●
●			動物病院実務	動物病院で勤務するにあたり必要な基礎知識と接客対応を学ぶ	２後	32	2	●			●			●	
●			総合学習	様々な企業・団体と連携した学外イベント、企業研修などに参加し、社会で必要とされるコミュニケーションスキルなどを身につける	2年	152				●	●	●	●	●	●
合計				9　科目	504単位時間(　22　単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業の要件　①必要単位数の補修　全取得可能単位の85%(96単位)以上②出席について　1年次からの出席累計が規定時数以上であること③卒業課題の提出　学科により指定される卒業論文及び卒業制作の審査に合格すること④学費などの完納本校所定の学費などを納入すること　履修について　・履修科目は、必須科目、選択科目、特別科目がある。必須科目、選択科目は履修を義務付けられている科目で、学期はじめのオリエンテーション時に発表する。特別授業は履修を義務付ける場合と義務付けない場合がある、一定の期間実施する集中授業である。特別授業の履修方法はその都度発表する。・2年間で履修すべき単位数と出席時数は定められており、それらが不足した場合は卒業保留となる。・卒業保留者には定められた期間に実施する補習授業、再試験などを行い、再単位取得の機会を与える。それらに合格し、必修単位数以上になると正規卒業者となる。・出席不足の恐れがある場合、夏季休暇、冬季休暇、春季休暇などに補習授業を実施する。・卒業制作は必修課題で提出の義務があり、所定の審査に合格する必要がある。・卒業制作は、学習成果を発表する重要な課題なので高単位である。・補習授業、追試験、再試験などは、認定されると授業単位数と同じになる。・補習授業、再試験は事前に指定の料金を徴収する。	１学年の学期区分	2期
	１学期の授業期間	16週

（留意事項）

１　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

２　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。